門真市第 2 地域包括支援センター活動計画書、活動報告書（令和6年度版）

資料4-②

●令和6年度当初の値

圏域内の居宅介護支援事業所数	12
主任介護支援専門員の人数	15
介護支援専門員の数	15

●令和6年度のケアプラン総数

基準月	ケアプラン作成数	直持ちプラン件数	委託プラン件数	委託率（%）
令和6年3月	212	22	2349	89.6%
令和7年3月	209	17	192	91.9%

事業の内容	門真市目標値		前年度実績		活動計画		上半期実績		当該年度実績		自己評価	前年度の反省を踏まえた当該年度の目標	上半期の活動内容のまとめと課題	上半期実績に対する市の講評	当該年度活動内容のまとめと課題	当該年度活動実績に対する市の講評	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数							
ケアマネジメン ト業務	事例検討会	1	2	2	20	0	0	2	21	3	前年度の事例検討会は、圏域のケアマネに浸透してきており、数件のケアマネから事例を上げてくれるようになってきたし、集まりも良くなってきた。今後も参加のケアマネも増えていき、事例の件数も増えて圏域ケアマネの交流の場としても良い関係作りができるよう努めていきたい。 元気はつらつ教室の利用を希望されたが、「行く」「行かない」を繰り返すケースや元気はつらつ教室の運営しているリハ職が訪問があり、家に何度も訪問されることを拒否されたため、結局元気はつらつ教室の利用にはいかなかった。	上半期は、圏域居宅事業所に対して、前年度にネットワーク会議にてCMより意見聴取した内容を研修会のテーマとして開催。下半期に圏域居宅事業所に対してネットワーク会議を開催予定。その際に次年度に向け意見聴取を行う。課題として、元気はつらつ教室に関しては、新規相談時に啓発を	ネットワーク会議においては、地域の民生委員等にも参加していただき、地域の課題等を共有し、関係性の構築等を含めて開催をされているので、引き続き開催をお願いしたい。元気はつらつ教室の利用実績が0件となっているのは、心身状況の重い方の相談がほとんどで、該当者がいない状況であるのは仕方がある。元気はつらつ教室は、リハ職同行訪問までは、5件繋がっているが元気はつらつ教室には繋がっていない。	リハ職同行訪問で、元気はつらつ教室の提案を受けた5ケースについて、教室の利用にはいらない状況であるのは、CMや市民への周知不足が原因と思われるので、圏域での勉強会等を通して圏域CMに周知いただく場を来年度は設定いただきたい。			
	うち、他圏域との合同開催数														0	0	0
	研修会（法定外研修含む）	2	1	1	15	1	12	3	96	4							
	うち、他圏域との合同開催数														3	0	0
	ネットワーク会議（圏域地域ケア会議以外の医療・関係機関等との意見交換の場など）	2	3	3	30	1	12	4	55	3							
	元気はつらつ教室利用者数（直持ち）	20	2	10	0	0	0	0	0	2							
元気はつらつ教室利用者数（委託）	0										10	0	0				
元気はつらつ教室終了後ケアマネジメントB算定件数（3か月後/6か月後）	12	1	12	1	2	2											
ケア地域会議	個別地域ケア会議 延べ件数（実件数）	延べ3	延べ14	延べ10	延べ（実1）	延べ（実6）	3	3	20	3	圏域ケア会議については前年度に担当医師との連絡会が行われ、その時の話の中で予定が合えば先生も出席医として頂けるというご意見を頂けたので、調整し圏域「権利擁護」。圏域基本チェックリストは様々な集まりの場において活用し、フレイル予防に繋げていけるよう努めていく。	個別地域ケア会議は、課題抽出及び政策形成に繋がるよう、今後も内容を精査しながら開催していく。上半期は「権利擁護」。圏域基本チェックリストは様々な集まりの場において活用し、フレイル予防に繋げていけるよう努めていく。	個別地域ケア会議においては、上半期では1件、下半期に1件を既に開催しており、CMが抱えている困難ケース等に関して、積極的に	下半期は虐待案件が複数あり、それによる対応が多くあった。下半期も積極的に役所と連携し開催していく。	2月に圏域ケア会議を開催予定であり、計画通りの開催できる見込みである。個別ケア会議は虐待ケースを中心に開催を		
	圏域地域ケア会議	1	1	1	10	0	0	1	20	3							
把介護予防	基本チェックリスト実施件数		30	75	80	15	48	2	2	2	基本チェックリストは様々な集まりの場において活用し、高齢者自身の心身の状況を把握してもらうツールとして、積極的に活用いただきたい。	基本チェックリストを様々な場でも活用し、高齢者自身の心身の状況を把握してもらうツールとして、積極的に活用いただきたい。	基本チェックリストは人の集まる機会に実施し、それを活用押し住民の心身の状況把握に努めていく。	基本チェックリストは介護予防教室や通いの場でも実施をされており、事業対象者に該当する方へのフォローが十分でないため、来年			
	上記のうち総合事業につなげた件数					0	0	0	0	0							
普及啓発	介護予防教室	12	120	34	455	40	500	12	183	29	492	介護予防教室は、定期的に開催しており公民館とイズミヤを拠点としている。定例で行っているが、その他にも通いの場でも積極的に予防教室に取り組んでいきたいと思っている。	介護予防教室は、①公民館、②イズミヤの2か所を起点に月2回程度は定期的に開催できている。他、出前講座という形で自治会等の「地域」からの依頼もあり、少しずつではあるが地域との連携や基盤強化に繋がっている。課題としては、新しい教室の開拓が必要である。	2か所の拠点で介護予防教室を開催しているため、上半期で既に11回の実施回数となっていることは非常に評価できます。出前講座の依頼にも対応しておられ、さらに教室の新しい開拓までを検討されており、非常に意欲的に取り組まれておられます。ただし、男性の参加が少ないことを課題に感じておられるため、テーマの選定等の検討が必要と思われます。	介護予防教室は安定して実施できています。現在次年度に向けて奇数月の音楽療法実施しておりますが別の講師にて偶数月も実施できるように働きかけています。	音楽療法の開催回数を来年度は増やし、より多くの市民に教室に参加してもらいたい。また、男性の参加者が少ないため、男性が興味のあるテーマの選定等検討いただきたい。	
	うち、他圏域との合同開催数																0
	出前講座	1	10	1	17	3	32	4	52	4							
	うち、他圏域との合同開催数										1						10
	介護予防教室・出前講座以外の普及啓発活動	1	10	1	10	0	0	2	21	2							
	うち、他圏域との合同開催数										0						0
地域支援	通いの場の開催支援	10	100	15	167	15	170	4	88	4	88	2	通いの場は以前比べたら増えてきつつあるが、全地域に均一な場所にあるわけではないので、少ない地域で何とか立ち上げに繋がっていただけたいと思っている。	上半期にプレゼンを行い、1か所立ち上げに繋がった。今後も民生委員や自治会の方との意見交換の場等で、通いの場が広がるよう啓発を行っていく。	通いの場に参加したいという住民が多いが、その一方でリーダーの思いがけないため、立ち上げができない状況は市としても課題と認識しております。	現在の通いの場を継続していきながら測定の時の関わりも続けていこうと思っております。また、通いの場を増やしていくために自治会の集まりに参加し、交流を図りたいと思っています。	介護予防拠点の新たな開拓も含めて、包括では細かい所までの吸い上げが難しいケースもあるため、来年度は自治会長の会議への参加予定である。様々な関係機関を活用し、支援が必要な高齢者の把握に努めている。
	通いの場への専門職（リハ職等）派遣（派遣回数と通いの場の人数）	3	15	1	15	3	15	1	19	3	50	3					
	ボランティア等養成及び活動支援	1	10	10	150	10	150	0	0	0	0	2	民生委員の集まり等の様々な場での通いの場の重要性を伝え、お手伝いできる方を募る等の活動をしているが、協力できる方を見つけることができていない。				
	うち、他圏域との合同開催数													2	14	0	0

介護予防拠点の 開発	地域包括支援センターが関わりのある通いの場の数と参加者数			5	167	5	175	6	109	6	109	3	通いの場が少ない地域で増やしていくには自治会での予防教室や出前講座を行い、そこから通いの場に繋げていくように考えている。 1か所立ち上げに繋がった。課題としては、参加人数超過の場所もあり、少しずつ参加人数が減ってきている場所もある。その個所に新たに1か所通いの場が立ち上がったことは非常に評価します。ただ、圏域内において通いの場のない空白地域があるため、SCと協	自治会の集まりに参加し現状を理解して頂き地域で開催できるよう努めています。	今年度1か所の通いの場の立ち上げにつながったため、来年度は空白地域での立ち上げにつながるように、引き続き第2層SCと協力	
	年度内に立ち上げた通いの場数と参加者数	1	5	2	35	1	5	1	19	1	25					
認知症総合支援事業	認知症初期集中支援チーム発動件数		2		0		2		0		0	2	認知症初期集中支援チームの発動を検討したケースはあるが、至急で対応しないと生命の危機につながることも多く、発動には至っていない。 は圏域内ではまだ立ち上げの開催支援に努めて 認知症フレックシアップ 認知症の相談は多い 員については本来の利 業務の中に 態で更に他 含まれて 員に繋 く通常業務 的に対応し ている。 門真市： 認知症の方も地域住民の方も参加しているゆめ伴プロジェクトの活動（折り鶴ステーション）に関わる際には、地域住民に認知症の方に関わる際の注意点などをお伝えしている。	「E」ステップは第三地 のし合い行 上。チーム は本来の利 業務の中に 態で更に他 含まれて 員に繋 く通常業務 的に対応し ている。	認知症初期集中支援チームの発動件数0件は、認知症で相談につながるケースは生活自体がままならない状況にある。初期集中支援チームの発動を検討するよりも、すぐさま支援が必要なケースが多い。認知症カフェに関しては具体的な立ち上げには至っていないが、実施に向けて検討を重ねている。	
	認知症カフェ（立上及び開催支援）	1	5			1	5	0	0	0	0	2				
	認知症サポーターステップアップ講座	1	10	1	16	1	10	0	0	1	7	3				
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	1	7					
	ボランティア等養成及び活動支援	1	5			1	5	0	0	0	0	2				
うち、他圏域との合同開催数							0	0	0	0						
任意事業	家族介護教室	1	5	6	48	6	50	1	7	3	20	2	家族介護教室は少しずつ増やすことが出来ている。認知症サポーター養成講座は計画中である。認知症サポーター養成講座ジュニアについては現在アンテナを上げ何とか開催できる機会はないかと模索中である。 家族介護教室及び認知症見守り教室については、予防教室及び出前講座等で定期開催している。下半期も開催予定。認知症サポーター養成講座は9月と10月に開催。課題として、認知症サポーター養成講座ジュニアの開催。開催できる機会がないか模索中。 家族介護教室終了後に少し話をする場の設定を検討しており、ゆくゆくは介護者家族交流会の立ち上げにつながるように支援をする。 車いす体験等を実施した中学校に認知症サポーター養成講座（ジュニア）を開催出来ないかと打診等をしている。	第三中学校の車椅子」体験については今年度実施時校長先生にこちらの趣旨を伝えておきましたので次年度に依頼があった際には実施できるよう伝えております。（2/21、3/21 家族介護教室・1/24認知症見守り開催）	介護者家族交流会に関しては具体的な立ち上げには至っていないが、実施に向けて検討を重ねている。来年度は具体的な動きが出るように期待をしている。	
	出前講座等を含めた普及啓発（家族介護教室）							0	0	0	0					0
	認知症見守り教室	2	10			2	10	0	0	1	6	4				
	出前講座等を含めた普及啓発（認知症見守り教室）							1	22	2	132					
	介護者家族交流会(立上及び開催支援)	1	5	1	12	1	15	0	0	0	0	2				
	介護者家族健康相談		1		0		1		0		0	1				
	認知症サポーター養成講座(一般)	2	10	1	20	2	20	0	0	3	21	3				
	うち、他圏域との合同開催数							0	0	1	7					
認知症サポーター養成講座(ジュニア)	1	10	0	0	1	10	0	0	0	0	2					
うち、他圏域との合同開催数							0	0	0	0						
対面 相談	休日 の 夜間・休日に対面して相談対応した件数（計画の記載は不要）			実人数	延人数			実人数	延人数	実人数	延人数					
				0	0			0	0	0	0					